

第6回「災害に強い森づくり(第2期対策)」事業検証委員会 議事要旨

- 1 **日時**：平成27年3月10日（火） 13：00～16：30
- 2 **会場**：兵庫県立ひょうご女性交流会館 5階 501号室
- 3 **出席者**：服部委員、北原委員、安藤委員、山瀬委員、石丸委員（計5名）、
田中環境創造局長、築山林務課長、渡邊治山課長、今里豊かな森
づくり課長ほか県関係者
- 4 **議題**
「報告書（最終）」作成に向けた協議
- 5 **議事**
 - (1) 第5回検証委員会の議事内容の確認について
 - ・ 議事録の内容確認、委員からの意見に対する県の回答
 - (2) 報告書の修正
 - ・ 里山防災林整備
 - ・ 針葉樹林と広葉樹林の混交林整備
 - (3) 新たな調査計画「伐採後の根系緊迫力試験」
 - (4) サントリー天然水の森 ひょうご西脇におけるシカの食害対策・試験
 - (5) 8月豪雨災害の調査結果
 - ・ 緊急防災林整備地の荒廃調査
 - ・ 災害箇所での根系調査
 - (6) 事業評価（案）
 - (7) 災害緩衝林の比較検証実験の報告について
 - (8) 「災害に強い森づくり」の今後の在り方についての提言内容の検討
 - (9) 今後のスケジュールについて

6 主な意見について

【針葉樹林と広葉樹林の混交林整備】

・「表面侵食防止機能を早期に回復させる対策」の図について、分かり易いよう工夫して下さい。

・階層区分の樹林の高さについて、中西先生の「生活系区分」を基準に見直して下さい。

【新たな調査計画 伐採後の根系緊縛力試験】

・萌芽更新後の株立ちした木を伐採して試験する場合、伐採前の胸高直径位置での断面積合計を測定してください。

・広葉樹はランダムに生えているが、立木間中央をどのように決定するのか。

・調査年数（間隔）について、5年後くらいまでは、毎年行って早くデータをまとめて下さい。

・既に伐採して、年数が経過している木について、根系調査等を行えば同等の成果が得られないか。

【サントリー天然水の森 ひょうご西脇におけるシカの食害対策・試験】

シカの採食に係る嗜好性は、周辺のエサ環境等のバランスを見ないと評価が流動的になるので注意が必要です。

【緊急防災林整備の荒廃調査】

・荒廃地調査結果について、荒廃した箇所の特徴を明らかにする場合は、荒廃しなかった箇所を含めた調査地全体のデータを母数にして分析する必要がある。

【災害箇所の根系調査】

・崩壊部分でも非崩壊部分でも、コナラはシイと比べて引き抜き抵抗力が劣っていると調査結果に出ているが、崩壊防止力に限ると、照葉樹林が夏緑高林より優れていると判断して良いのか。

・崩壊地での計測が立木間中央でなく、もっと強い所を計測している可能性がありますか。

【災害緩衝林の比較検証実験の報告について】

- ・ 実験で用いた立木の含水率や重さは再現されていますか。
- ・ 溪流の屈曲部を再現するなど、どの位置に簡易流木止め施設を配置すれば最も捕捉効率が良いのか、簡易流木止め施設の構造についても、どのような形状が最も捕捉効率が良く、かつ施工性や費用の面で有利なのか等、今後も実験で確かめて下さい。

【針葉樹林と広葉樹林の混交整備について】

これまで、針葉樹林は防災的な土壌の緊縛力等が弱いため、針葉樹の一斉林を部分的に広葉樹林に変えていくという趣旨で整備を行ってきたはずで、伐採した所に再び針葉樹林を植える発想は無かったと思う。伐採した所に針葉樹を再び植えるのですか。それで防災機能の向上が図れますか。

【住民参画型森林整備について】

放置竹林が、今後問題になると思うのですが、放置竹林の対応は物理的な伐採だけですか、科学的防除とか生物的防除はないのですか。